

避難を助ける情報

情報の伝わり方

災害発生の危険が高まったときや災害発生時には、様々な方法で情報が発信されます。大切な情報を自ら入手できるよう、平常時から確認しておきましょう。

国土交通省・埼玉県 <水位情報> 気象庁・熊谷地方気象台 <気象情報> 埼玉県 <県内の災害情報>



いんぷおメール **事前登録必要**

災害時の情報や市政情報を電子メールでお知らせします。
登録区分例: 防災行政無線、防災・気象情報

メールアドレス: infomail@city-higashimatsuyama.jp

右のQRコードを読み取るか、上記メールアドレスを直接入力し、空メールを送ってください。

緊急速報メール **登録不要**

緊急情報を携帯電話に配信します。設定が必要な場合がありますので、詳しくは携帯電話会社にお問い合わせください。

防災行政無線

市内の放送塔や戸別受信機から災害時の避難情報などを放送します。いんぷおメールやテレホンサービスでも放送の内容を知ることができます。

テレホンサービス
TEL 0493-22-5011・0493-22-5013

気象情報・水位情報

気象情報や河川水位情報で水害のおそれがあると気づいたときは、避難情報が発令されていなくても、避難を検討しましょう。

注意報・警報・特別警報

大雨などの大雨により災害が起こるおそれがある場合、注意報や警報などの防災気象情報が発表されます。

大雨の状況	注意報
雨が強くなる	大雨注意報、強風注意報、洪水注意報など
大雨が降り続く	災害が発生するおそれがあると予想されたときに発表されます。
さらに激しい大雨が続く	警報
	大雨警報、暴風警報、洪水警報など
	重大な災害が発生するおそれがあるときに発表されます。
	特別警報
	大雨特別警報、暴風特別警報など
	重大な災害が発生する可能性が非常に高まっている場合に発表されます。

土砂災害警戒情報

地域の雨量などを考慮して、土砂災害発生の危険性が高まった地域に対して発表されます。

台風情報

台風は暴風や大雨等をもたらします。勢力が強く、大きい台風が迫っている場合には注意が必要です。

記録的短時間大雨情報

その地域に浸水の発生につながるような、めったにない大雨が降っているときに発表されます。

河川水位情報

	熊谷観測所	野本観測所	入西観測所	天神橋観測所	慈雲寺橋観測所
氾濫危険水位	5.50	4.10	3.20	19.58	17.90
避難判断水位	5.00	3.70	3.00	-	16.92
氾濫注意水位	3.50	3.50	3.00	19.25	16.50
水防団待機水位	3.00	2.00	2.00	18.00	15.30

各水位観測所の基準値 (m)

気象庁
URL <https://www.jma.go.jp>
TEL 177

国土交通省川の防災情報
URL <https://www.river.go.jp>
スマホ版 <https://www.river.go.jp/s/>

NHK データ放送 (dボタンを押す)

浸水被害を軽減する方法

浸水に備えて普段からできることがあります。

普段から

側溝や排水溝の清掃をしましょう。

雨水がスムーズに流れなくなると、雨水がたまり、浸水が発生します。普段から側溝や排水溝の掃除をして、水はけを良くしておきましょう。



保険・共済に加入しましょう。

浸水被害からの生活復旧には、想像以上の費用がかかります。水害に対応した保険や共済に加入しておくことで、生活復旧への支援が受けられます。



大雨が予想される段階

屋外の作業は大雨が降る前に

物干しざおや物干し台は寝かせ、風で飛ばされそうな植木鉢やゴミ箱などは、室内に入れておきましょう。窓や屋根の補強などは、早めに終わらせておきましょう。



自家用車を早めに安全な場所へ移動しておきましょう。



エアコンの室外機や配線類から漏電の危険性があります。ブレーカーを落としておきましょう。



浄化槽に土砂や泥が浸入しないように、浄化槽のフタがしっかりと閉まっているか確認しましょう。また、プロアー（浄化槽ポンプ）の電源を切り、高い場所に移動しておきましょう。



簡易水防工法で浸水を防ぎましょう。

簡易水防工法は、家庭にあるものを使って家屋への浸水や流入を防ぐ方法で、水深が浅い段階では有効です。玄関などの出入口のみならず、床下への浸水の防止も重要です。

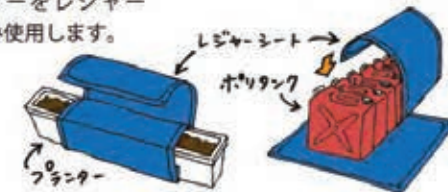
40リットル程度の容量のゴミ袋を二重にして、中に半分程度の水を入れて閉めます。これをダンボール箱に入れ、連結して使用します。



出入口に板などを設置し、浸水を防ぎます。



水を入れたポリタンクや土を入れたプランターをレジャーシートで巻き込み使用します。



思わぬ場所からの浸水を防ぎましょう。

建物の周辺が浸水すると、下水が逆流して、排水口などから水が噴き上がることがあります。水を入れたビニール袋などを置いて、逆流を抑えましょう。



風呂の浴槽の水は流さずに溜めておきましょう。下水の逆流を防ぐことができ、生活用水としても利用することができます。



大事なものを高いところへ上げましょう。

水に浸かってしまうと、家財や家族の思い出の品も一瞬にしてゴミと化してしまい、浸水後には街中がゴミであふれかえることになります。できる限り家財を高いところへ上げましょう。

